

## Ⅱ 事業の概要（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

平成29年度の事業実施に当っては、市場の金利低下によって基金の利息収入確保が厳しくなっていることから、健全な運営のための収支均衡や公益法人としての収支相償に配慮しつつ、債券売却を行い公益事業の安定的な継続に努めるよう取り組んだ。

漁業振興公害対策事業では、県内各地の浜の再生プラン等の県内沿岸漁業の振興策への支援をするとともに水産基盤施設の改善や漁村の活性化が図れる支援等を行った。

栽培漁業推進事業では、水産資源の維持増大のため、種苗受入尾数等の事業規模の維持に努めるとともに、種苗生産機関、漁業者団体、行政機関等との連携を図った。

基金運用においては、将来的に財源不足が心配される法人会計の運用益の確保のため、売却益が確実に得られる長期（償還期間10年）の債券を売却し運用を行った。

## 1 漁業振興公害対策事業

漁業振興基金基本財産運用収入によって、事業費（助成額）15,647 千円で、沿岸漁業振興に係る次の事業を実施した。

### 実施事業一覧

事業名	地域振興事業	広域振興事業
1 漁業振興対策事業  (14,167 千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 種苗放流事業</li> <li>・ 漁業施設整備事業 伊豆漁協等 10 件 (13,347 千円)</li> <li>・ 漁港関連整備事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重要魚種増殖対策事業 県桜えび組合 (300 千円)</li> <li>・ 磯焼け対策事業 磯焼け対策協 (200 千円)</li> <li>・ 漁業開発調査指導事業 県漁連 (320 千円)</li> <li>・ 種苗放流事業</li> </ul>
2 漁業公害対策事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁場監視対策事業</li> <li>・ 公害対策関連事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公害対策等</li> </ul>
3 漁業環境保全対策事業  (50 千円)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海底清掃事業</li> <li>・ 障害物除去事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広域的海岸・海中清掃事業 浜名湖をきれいにする会 (50 千円)</li> <li>・ 地先漁場保全対策事業</li> </ul>
4 教育広報事業  (1,430 千円)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漁業者等育成事業 県漁連 (1,180 千円)</li> <li>・ 広報事業 県漁連 (250 千円)</li> </ul>
合計 15,647 千円	13,347 千円	2,300 千円

## 2 栽培漁業推進事業

第7次基本計画に基づき、栽培漁業基金基本財産運用収入、県補助金、漁業者及び市・町の負担金等を財源とした当初事業予算 57,705 千円で、指定法人が行なう「放流効果実証事業」としてマダイ・ヒラメの中間育成・放流事業を、振興基金が自主的に行う「地域放流効果普及事業」としてクルマエビの放流事業を行った。

放流効果実証事業のうちマダイ放流事業は、伊豆、中部、榛南の3地域でそれぞれ地域栽培漁業推進協議会を設置し、資源増大推進普及事業（補助金事業）及び地域栽培推進事業（負担金事業）として実施した。二つの予算事業は一体的に実施し、効率的な事業実施に努めた。本年の静岡県温水利用研究センター（本所、沼津分場）のマダイ種苗生産については、本所の生産が著しく不調であった。本所は、中部・榛南地域対して、70万尾の種苗を供給する計画となっていたが、8.6万尾しか供給できず、沼津分場がそれを補うため、90万尾生産の計画のところ、132.4万尾の生産を行った。本所の種苗生産不調は、主に腹部膨満症の発生が原因であった。全14飼育事例中、12の事例でその発生が見られ、時期はふ化後12～26日目の間で、12事例中7事例で生残尾数が著しく低下し、生産中止にまで追い込まれた。

放流効果実証事業のうちヒラメ放流事業は、榛南地域においては地域栽培漁業推進協議会を設置し、資源増大推進普及事業（補助金事業）及び地域栽培推進事業（負担金事業）として実施し、沼津地域においては漁業者・市の負担金及び栽培漁業基金基本財産運用収入を財源として漁業振興基金から地元の沼津市漁業協同組合青壮年部連絡協議会へ委託し実施した。本年のヒラメの種苗生産は、計画どおりの種苗が確保され、榛南については中間育成も歩留りも良く、計画放流数を上回る結果となったが、沼津の中間育成は滑走細菌症が発生して放流は計画を下回った。

地域放流効果普及事業として行ったクルマエビ放流事業は、浜名漁協からの要望と県が進めているDNA解析による放流効果調査を支援するとともに、浜名湖の重要水産物であるクルマエビの放流技術の改善、放流効果の普及を図るために実施した。

なお、平成23年の東日本大震災に関連した浜岡原発の運転停止の影響によって、静岡県温水利用研究センターではそれ以前と同様の温排水等の使用は困難になっているが、国・県・電力事業者等の努力によって温水ボイラーや海水供給ポンプ等の整備・運転等が継続されてきている。平成29年度も県・電力事業者等の努力によって前年度までと同様の種苗生産体制が維持された。

(1) 放流効果実証事業

ア マダイ放流事業

(ア) 伊豆地域

伊豆地域では、静岡県温水利用研究センター沼津分場から 25 mmサイズのマダイ種苗を 90 万尾受け入れる計画であったが、温水センター本所の種苗生産が不調で、中部地域への供給については沼津分場生産分を充てることになり、結果的に伊豆網代、沼津分計 9 万尾が計画より減になり計 81 万尾供給となった。本年も昨年と同様に中間育成の歩留りが低くなり、伊豆地域の放流尾数は合計 329 千尾となり、計画の 591 千尾の 55.6%に止まった。

また、沼津市久料幼稚仔保育場における放流後の減耗防止と定着率向上のための給餌と施設管理及び集魚状況調査では、久料沖の幼稚仔保育場の中でも岸寄りの海域とし、地元青壮年部等が設置した粗朶礁による滞留効果が認められた。

(イ) 中部地域

中部地域では、静岡県温水利用研究センター本所が生産不調のため、沼津分場よりマダイ種苗 20 万尾を受入れた。中部地域の放流尾数は合計 114 千尾となり、計画の 131 千尾の 86.7%となった。

(ウ) 榛南地域

榛南地域では、静岡県温水利用研究センター本所から 25 mmサイズのマダイ種苗 50 万尾を受入れる計画だったが、本所の種苗生産の不調により、8.6 万尾の供給に止まったため、31.4 万尾を沼津分場、10 万尾を神奈川県栽培センターにより供給した。中間育成の歩留りが目標より低くなり、榛南地域の放流尾数は合計 204 千尾となり、計画の 328 千尾の 62.1%に止まった。

表 事業別・地域別マダイ中間育成・放流結果一覧

地域別・中間育成・放流結果（資源増大推進普及事業、地域栽培推進事業の合計）

魚種	マダイ						
	伊豆				中部	榛南	合計
対象海域	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成場	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	341	225	244	810	200	500	1,510
沖出し時全長(mm)	25	26	27	—	32	27~38	—
放流尾数(千尾)	130.8	80.4	117.4	328.6	113.6	203.6	645.8
放流時体長(mm)	78	69	76	—	67	51~67	—
実施時期	6~9月						—

事業別・中間育成・放流結果（資源増大推進普及事業）

魚種	マダイ						
	伊豆				中部	榛南	合計
対象海域					小川	地頭方	—
中間育成場	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	123.8	97.5	139.1	360.4	—	350	710.4
沖出し時全長(mm)	25	26	27	—	—	27～38	—
放流尾数(千尾)	47.4	34.8	66.9	149.1	—	135	284.1
放流時体長(mm)	78	69	76	—	—	51～67	—
実施時期	6～8月						—

事業別・中間育成・放流結果（地域栽培推進事業）

魚種	マダイ						
	伊豆				中部	榛南	合計
対象海域					小川	地頭方	—
中間育成場	網代	田子	内浦	計	小川	地頭方	—
中間育成尾数(千尾)	217.5	127.5	105	450	200	150	800
沖出し時全長(mm)	25	26	27	—	32	30	—
放流尾数(千尾)	83.4	34.8	45.6	163.8	113.6	68.6	346
放流時体長(mm)	78	69	76	—	67	61	—
実施時期	6～8月						—

イ ヒラメ放流事業

(ア) 榛南地域

榛南地域では、静岡県温水利用研究センター本所から当初計画どおり 30 mmサイズのヒラメ種苗 42 万尾を受入れた。本年は、飼育が順調に行われ、大きな疾病による減耗も無く、榛南地域の放流尾数は合計 295 千尾となり、計画の 280 千尾の 105.4%になった。

(イ) 沼津地域

沼津地域では、静岡県温水利用研究センター本所から当初計画どおり 30 mmサイズのヒラメ種苗 6 万尾を受入れた。滑走細菌症による減耗が発生し、中間育成の歩留りが目標よりも低くなり、沼津地域の放流尾数は合計 28 千尾となり、計画の 40 千尾の 70%に止まった。

表 事業別・地域別ヒラメ中間育成・放流結果一覧

地域別事業別・中間育成・放流結果

魚種	ヒラメ				
	榛南			沼津市	合計
対象海域					
事業名	資源増大推 進普及事業	地域栽培 推進事業	計	—	—
中間育成場	温水センター		—	内浦	—
中間育成尾数(千尾)	220	200	420	60	480
受入れ時全長(mm)	31	31	—	34	—
放流尾数(千尾)	154	141	295	28	323
放流時体長(mm)	62	62	—	39、50	—
実施時期	4～5月		—	4～5月	—

(2) 地域放流効果普及事業（自主事業）

ア クルマエビ放流事業

浜名湖において、静岡県温水利用研究センター本所から平成 29 年 8 月に 15 mm サイズのクルマエビ種苗を、平松地先に 54 万尾、10 月に平松地先に 55.7 万尾、横山地先に 43.6 万尾、女河八幡地先に 26.7 万尾、合計尾数は 180 万尾となり、計画どおりの放流を行った。

表 地域放流効果普及事業(クルマエビ)の中間育成・放流結果

放流日	放流先	放流尾数(万尾)	平均体長(mm)
H29.8.17	浜名湖(平松)	54	14.4
H29.10.5	浜名湖(平松)	55.7	19.9
H29.10.5	浜名湖(横山)	43.6	20.9
H29.10.5	浜名湖(女河八幡)	26.7	20.6
計		180	—